

駒場博物館カタログ資料室開室
10周年記念式典
&
東大比較文學會 CatalTo2016



東大比較文學會
展覽会・カタログ評院生委員会編
2017年7月21日

駒場博物館カタログ資料室開室
10周年記念式典
&
東大比較文學會 CatalTo2016



東大比較文學會
展覽会・カタログ評院生委員会編
2017年7月21日

目次

1. 今橋映子「駒場博物館カタログ資料室開室十周年記念式典および東大比較文學會 CatalTo2016 開催に寄せて」	3
2. 中島理壽「駒場博物館カタログ資料室開設 10 周年によせて」	4
3. 学外から駒場博物館カタログ資料室への寄贈について	6
4. 駒場博物館紹介及び関連記録	7
5. 東大比較文學會 CatalTo について	10
6. 東大比較文學會 CatalTo2016 受賞作書誌情報一覧	10
7. 東大比較文學會 CatalTo2016 受賞作およびご列席者一覧	11
8. 松枝佳奈「東大比較文學會 CatalTo2016 開催記録」	12
9. 「展覧会・カタログ評院生委員会」について	15
10. 『比較文學研究』掲載歴代展覧会・カタログ評題目一覧	17
11. 駒場博物館司書・木村由美子氏インタビュー (聞き手: 李範根)	イボムグン 25
12. 寺田寅彦「資料室と CatalTo の未来へ」	26
〈参考資料〉	27
・外部評価 (1) : 安藤智子「研究教育に直結した資料室として—駒場美術博物館および資料室見学記」(『アートドキュメンテーション通信』No.83、アートドキュメンテーション研究会、2009年、10頁)	
・外部評価 (2) : 『新美術新聞』2013年11月1日(金) 第2面	

1. 駒場博物館カタログ資料室開室十周年記念式典および東大比較文學會 CatalTo2016 開催に寄せて

東大比較文學會編輯委員・美術博物館委員 今橋映子

(東京大学大学院総合文化研究科・教授)

駒場の美術博物館にあります展覧会カタログ資料室が開室してから今年で十周年を迎えるました。

2007年6月に開室以来この資料室は、全国の美術館、博物館、文学館等で催される企画展図録を中心に、駒場の研究教育にふさわしいものを精選して収集し続け、すでにその数16000冊（他に雑誌774種）を超えるました。特に内容的に、学術性やデザイン性など優れたカタログを収集してきたために、近年では、アートドキュメンテーションの専門学会や専門家からも高く評価される資料室に成長したことを、大変喜ばしく思います。現在では、駒場の学部、大学院の授業でも活用され、学外の利用者も多くなりました。

またこの資料室での資料収集にあたっては、大学院比較文学比較文化研究室所属の大学院生たちによる「展覧会・カタログ評議会委員会」が組織され、その活動も12年目に入りました。本年から、彼らを中心として学内外の協力も得て、東大比較文學會 CatalTo（展覧会図録品評勝手連 TOKYO）という企画も立ち上がり、その第一回品評会が先日行われました。東京周辺でこの一年間に行われた企画展のうち、優れたカタログを、鑑賞者および研究者の視点で数点選び、皆で楽しんで賞揚しましょう、という催しです。2020年東京オリンピックに向けて、文化プログラムの振興など、美術館博物館での活動がさらに注目される昨今、後世に遺る記録としてのカタログや資料のアーカイブと、それをめぐる「批評」のあり方を学術的に探ってきた私たちの活動の、一つの良い節目となると思います。

私自身、十年前にこの資料室を立ち上げたスタッフの一人として、また今年度からCatalToをスタートさせた企画者の一人として、駒場の研究教育水準を内外に示す一つの場であるこの機会に、学内外から多くの関係者にお越し頂くことができ、大変に嬉しく存じます。この機会に、CatalTo受賞作品のミニ展覧会も開催し、記念パーティーも催します。夏の夕べを皆さんと楽しく歓談できることに、改めて感謝申し上げます。

2017年7月21日

2. 駒場博物館カタログ資料室開設 10 周年によせて

中島 理壽

(美術ドキュメンタリスト・美術評論家連盟会員)

1970 年代、日本美術の国際化に歩調を合わせるかのように、日本でも本格的な展覧会カタログが刊行されるようになり、80 年代・90 年代と年を重ねるにしたがって量的にも質的にも広がりを見せ、展覧会カタログは新しいメディアとして認知されるようになっていく。美術展や文化史展だけでなく、音楽や文学など他の芸術領域を巻き込んで内容豊かな展覧会カタログが相次いで作られるのである。

そのような状況のなか、2003 年 6 月に出版された今橋映子編著『展覧会カタログの愉しみ』(東京大学出版会) は、展覧会カタログを、幅広い芸術・学術分野が交差する知の共有財産と位置づけ、展覧会カタログの編集・刊行、収集、活用・保存という一連の学術的営みをソフトな文化装置として捉えるものであった。異分野をまたぐ知的冒険を可能してくれるのが展覧会カタログというのである。その書名に〈愉しみ〉とあるから〈やさしい入門書〉と思いきや、実は展覧会カタログ自立宣言の書であったのだ。

内容的に言えば、展覧会カタログは、芸術雑誌(美術誌・写真誌・デザイン誌等々)の特集号とも言える。また刊行スタイルは、美術館が定期的に刊行するので逐次刊行物そのものである。ただ、大きく異なるのは、〈カタログ〉という核心部分と資料編の存在、および担い手である。かつて出版社は文化施設(美術館・博物館・文学館等々)の協力を得て、見ごたえのあるカラーページを多用して特集を組んでいたが、現在では、その文化施設自らが特色ある膨大なコレクションやスタッフの知力を活用して 1 冊の刊行物=展覧会カタログを編集・刊行するようになってきたのである。それは、美術分野で言えば、美術雑誌の時代から展覧会カタログの時代へと美術メディアの交代を意味するものとなった。1990 年代前半に『みづゑ』や『三彩』が消えたように既に予兆はあったが、2000 年 12 月に平凡社の総合グラフィック誌『太陽』も休刊し、美術系雑誌は美術メディアの首座を展覧会カタログに譲り渡すことになった。

そして、展覧会カタログ批評こそがこの現代のメディアそのものをさらに活性化し豊かなものにする、という確信の基に進められてきたのが「展覧会・カタログ評院生委員会」(2004 年 10 月) の活動である。残念なことに、大部分の展覧会カタログの作り手たち(美術館学芸員や美術史家ら)は、この活動の重要性に気づいていない。が、若い人たちの的確で刺激に充ちた批評こそ展覧会カタログの可能性をより確実なものにすることであろう。

そこで、この活動に取り組む院生の方々へお願いがある。一冊の展覧会カタログと

出会い、その内実を探るとともに、二つの課題にぜひ挑戦してほしいのである。

一つは、学術雑誌を幅広く読むように、展覧会カタログができるだけ多く手にしてほしい。読み込まなくても〈かたち姿〉を頭に入れるだけでいい、実体としての展覧会カタログの裾野の広さ、そしてそれぞれ内容の厚みを実感として内包しておいてほしいのである。乱読ならぬ乱閲の勧めである。

このことをいとも簡単に実現できる場を院生の皆さんには、直ぐそばに持っている。駒場博物館資料室である。駒場の資料室は、展覧会カタログ専門のライブラリーと言うだけでなく、その蔵書の大黒柱である展覧会カタログそのものが、とても純度の高い質を保っている。展覧会カタログの冊数だけであれば、この資料室を凌ぐライブラリーは日本に数館あるが、それらのライブラリーでは、蔵書の半数とは言わないが、公募展や新作展の図録がかなりのウェイトで所蔵されている。ご承知のように、展覧会カタログは、企画展カタログ（厳格な意味での展覧会カタログ）と公募展・新作展カタログ（展覧会図録）に大別されるが、この内容・性格を異にする2つの展覧会カタログは、本来は別々に統計をとる必要があるのだが、まだ誰もその必要性を感じていないようだ。駒場の資料室は、他に例を見ないほど圧倒的に企画展カタログの比率が高いのである。

もう一つ、これは小さな課題であるが、展覧会カタログの核心である〈カタログ〉部分に、できれば資料編の部分を含めて、注視してほしいのである。論文や作品図版だけの評価であれば、あえて言えば〈美術雑誌の特集号〉評と何ら変わりがない。展覧会カタログは、〈カタログ〉があつてこそその存在なのである。この〈カタログ〉の構築や資料編の編纂には、展覧会カタログの作り手たちの真の実力が試されるが、おざなりの〈カタログ〉があまりにも多いのが現状である。

駒場博物館資料室のこれからの中10年は、このような課題が共有化されることによってより魅力あるライブラリーへとさらなる歩みを速めることになることであろう。というのも、資料室になければならない展覧会カタログが意識されるようになり、「求む=この展覧会カタログ」がリスト（待訪書目という）化され、それを公開することによって収集に弾みがつくはずである。専門ライブラリーとは、蔵書数の多々さだけでなく、るべき展覧会カタログがきちんと、ほぼ完全に収集されているかどうかにかかっているからである。

2017年7月11日

3. 学外から駒場博物館カタログ資料室への寄贈について

現在、駒場博物館資料室では、全国各地の美術館博物館文学館等から、企画展カタログの寄贈を頂いています。また近年では以下のような形で、駒場博物館資料室を信頼して個人的な資料を直接御寄贈下さる機会も増え、然るべきアーカイブの形成と公開を日々目指しています。

関係の皆さまには、この場を借りて深く御礼申し上げます。

(美術博物館委員・総合文化研究科教授 今橋映子)

◇画廊、デパート等の「現代美術展」リーフレット受け入れ

日本国内のギャラリー等で開催された現代美術展のリーフレットの寄贈を、2014年より駒場博物館が受けています。

主たる寄贈者は、創刊間もない時期から『美術手帖』の編集を務め、その後も美術出版社で書籍編集の中核を担われた上甲ミドリ氏と、アヴァンギャルド芸術の道を進み、画家としての作品の他に多数の著述も行っている池田龍雄氏です。

2017年7月時点で、上甲氏より414点、池田氏より733点の計1147点が寄贈されております。2018年の一般利用開始目標に、各リーフレットの詳細データ登録と中性紙封筒への封入作業を続けています。

(データについてはまだ公開しておりませんが、この度の資料室十周年記念式の折には、館内にて印刷資料をご覧頂けます)

池田氏からはリーフレットの他に書籍の寄贈も受けており、その中でも駒場博物館資料室の趣旨に沿ったものはOPAC登録をし、資料室で利用可能な状態になっています。

(駒場博物館：中津海裕子)

4. 駒場博物館紹介及び関連記録



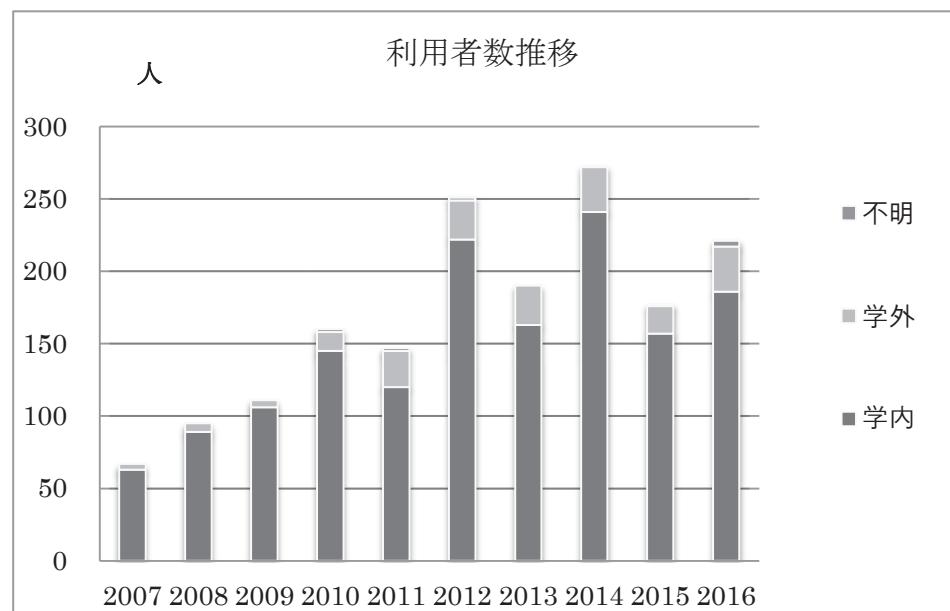
駒場博物館は、美術博物館と自然科学博物館で構成されています。駒場博物館の建物は、教養学部の前身である旧制第一高等学校の図書館として建てられた由緒あるものです。2003年、この建物に全面的な改修が施された後、長年にわたり別々の場所で独自の活動を行ってきた二つの博物館がはじめて同じ建物で活動することになりました。

駒場博物館の両翼である二つの博物館は、それぞれの個性を生かしつつ連携し、定期的に共催の展覧会を催すなど、総合文化研究科・教養学部ならではの文系・理系の垣根を越えた活動を行っています。

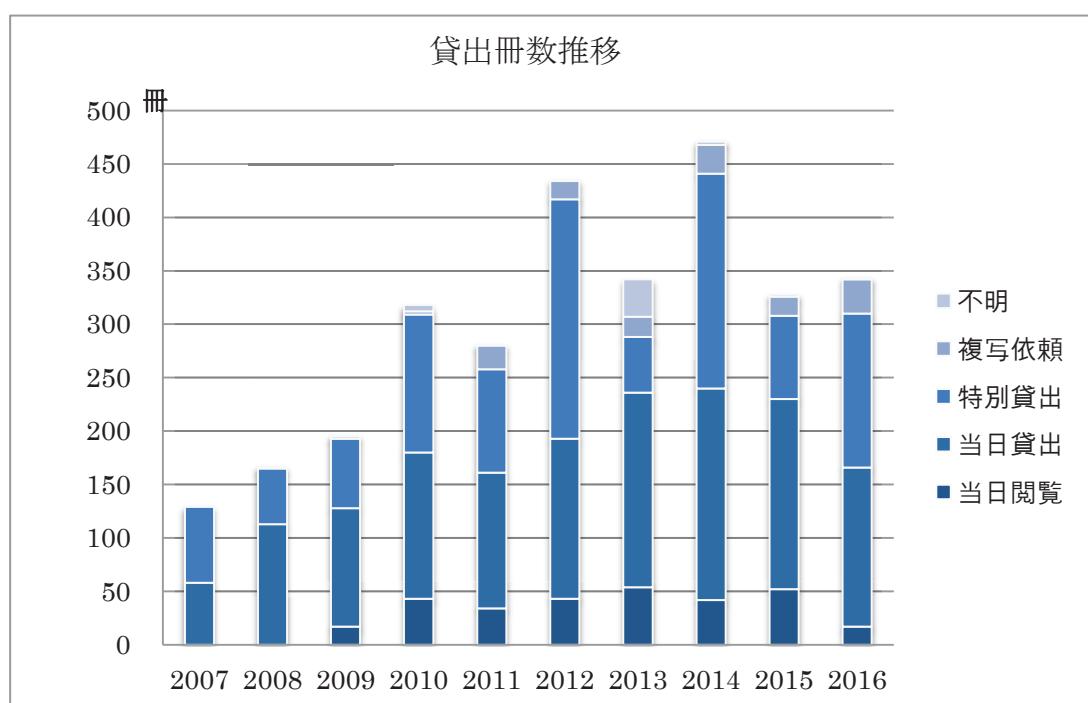
2007～2016年までの資料室図書利用統計

年度	利用者			利用者合 計	利用方法				利用図書 合計
	学内	学外	不明		当日閲覧	当日貸出	特別貸出	複写依頼	
2007	63	4		67		58	71		129
2008	89	6	0	95	0	113	52	1	0
2009	106	5	0	111	17	111	65	2	0
2010	145	13	2	160	43	137	129	3	6
2011	120	25	2	147	34	127	97	22	1
2012	222	27	2	251	43	150	224	17	0
2013	163	27	0	190	54	182	52	19	35
2014	241	31	0	272	42	198	201	27	3
2015	157	19	1	177	52	178	78	18	2
2016	186	31	4	221	17	149	144	32	1
									343

1) 利用者数推移グラフ



2) 貸出冊数推移グラフ



3) 年度別 OPAC 登録図書冊数（2017年6月現在）

年度	洋書		和書		全体	
	冊数	カタログ (内数)	冊数	カタログ (内数)	冊数	カタログ(内数)
1990	1				1	
1991	2		23		25	
1992	21	3	9		30	3
1993			20		20	
1994						
1995	45	3	24	7	69	10
1996	10		6		16	
1997	1		7		8	
1998			31	2	31	2
1999			9	1	9	1
2000			1	1	1	1
2001	1		13		14	
2002	1		3		4	
2003						
2004			4	2	4	2
2005			301	298	301	298
2006	6	3	1,970	1,968	1,976	1,971
2007	31	10	1,587	1,490	1,618	1,500
2008	3	3	293	292	296	295
2009	17	10	1,280	1,013	1,297	1,023
2010	282	156	1,584	1,059	1,866	1,215
2011	130	74	1,766	881	1,896	955
2012	79	39	1,502	647	1,581	686
2013	173	12	1,466	1,193	1,639	1,205
2014	72	15	1,215	924	1,287	939
2015	172	95	945	843	1,117	938
2016	119	78	1,121	1,005	1,240	1,083
2017	3	3	83	75	86	78
総計	1,169	504	15,263	11,701	16,432	12,205

*雑誌種類数 774種

5. 東大比較文學會 CatalToについて

CatalTo（展覧会図録品評勝手連 TOKYO）は、展覧会カタログを品評し愉しむことを目的として、有志により運営される会です。東大比較文學會の「展覧会・カタログ評院生委員会」関連のメンバーと教員を中心に構成され、学外からの参加も得ています。

毎年、一年間に出版された展覧会カタログを内容、装幀、学術的価値等のさまざまな観点から自由に品評し合い、とくに優れたものに敬意を表し、ささやかな賞を贈る会を開催することを、主な活動内容としています。「CatalTo」という呼称は、Catalogues+Tokyoであり、この活動の着想の源となった、パリで開催されている展覧会カタログの品評会 CatalPa [Catal(ogues d'expositions de) Pa(ris)] から名付けられました。

日本における美術館博物館の活動および展覧会文化を、「観客」の目で堪能し、応援する機縁になればと思います。

6. 東大比較文學會 CatalTo2016 受賞作書誌情報一覧

書名(副題を含む)	開催期間および開催館(巡回情報を含む)	発行元
色の博物誌 江戸の色材を観る・読む	2016.10.22～12.18 目黒区美術館(*巡回なし)	(公財)目黒区芸術文化振興財団目黒区美術館
シャセリオー展 19世紀フランス・ロマン主義の異才	2017.2.28～5.28 国立西洋美術館(*巡回なし)	TBSテレビ
花森安治の仕事 デザインする手、編集長の眼	2017.2.11～4.9 世田谷美術館(*巡回:2017.4.18～5.21 碧南市藤井達吉現代美術館、2017.6.16～7.30 高岡市美術館、2017.9.2～10.15 岩手県立美術館)	読売新聞社、美術館連絡協議会
並河靖之七宝 明治七宝の誘惑—透明な黒の感性	2017.1.14～4.9 東京都庭園美術館(*巡回:2017.9.9～10.22 伊丹市立美術館、2017.10.28～12.25 パラミティュージアム)	毎日新聞社
南極建築1957-2016	2017.3.30～5.27 LIXILギャラリー1(東京)(*巡回:2016.12.9～2017.2.21 LIXILギャラリー大阪)	LIXIL出版
近代日本のイタリア発見—岩倉使節団の記録から—	2016.7.1～2016.7.24 久米美術館(*巡回:2016.10.1～2016.10.31 京都外国语大学国際文化資料館)	京都外国语大学
漢字三千年—漢字の歴史と美—	2016.10.20～2016.12.4 東京富士美術館(*巡回:2017.3.24～2017.4.21 京都市美術館(別館)、2017.4.29～2017.6.11 新潟県立近代美術館、2017.6.24～2017.8.11 東北歴史博物館、2017.8.20～2017.9.10 高崎シティギャラリー)	黄山美術社
女たちの絹絵 ベトナム絹絵画家グエン・ファン・チャン 3rd絵画保存修復プロジェクト展	2017.5.10～2017.5.16 上野の森美術館ギャラリー(*巡回なし)	「ベトナム絹絵保存修復プロジェクト」実行委員会

7. 東大比較文學會 CatalTo2016 受賞作およびご列席者一覧



2017.07.21

- ・ **CatalTo 総合賞** (学術性やデザイン性、独創性、娛樂性など総合的に見て良質です)

『色の博物誌 江戸の色彩を観る・読む』
(目黒区美術館・降旗千賀子様)

- ・ **CatalTo 学術賞** (論文や解説、書誌等が充実し、特に高い学術的価値を賞します)

『シャセリオ一展 19世紀フランス・ロマン主義の異才』
(国立西洋美術館・陳岡めぐみ様)
『花森安治の仕事 デザインする手、編集者の眼』
(世田谷美術館他・矢野進様)

- ・ **CatalTo 印刷賞** (出品作品の図版や画像の再現性や色彩の美しさを賞します)

『並河靖之七宝 明治七宝の誘惑 透明な黒の感性』
(東京都庭園美術館他・大木香奈様)

- ・ **CatalTo 薄くても良いで賞** (小規模ながら、解説・情報等の量や質の水準が高いです)

『近代日本のイタリア発見 岩倉使節団の記録から』
(久米美術館他・伊藤史湖様)

- ・ **CatalTo 一般にオススメで賞** (高い独創性や娛樂性も備え、ぜひ多くの読者に手に取っていた
だきたいです)

『南極建築 1957-2016』(LIXIL ギャラリー1)

- ・ **CatalTo 国際交流賞** (外国の美術館や博物館との緊密な協力を賞します)

『漢字三千年 漢字の歴史と美』(東京富士美術館他)

- ・ **CatalTo ポスター賞** (優れた特色があり、デザイン性が高いと賞されるポスターです)

『女たちの絹絵 ベトナム絹絵画家グエン・ファン・チャン 3rd 絵画保存
修復プロジェクト展』(上野の森美術館ギャラリー・中村勤様)

8. 東大比較文學會 CatalTo2016 開催記録

松枝佳奈

(日本学術振興会特別研究員)

- ・タイトル : CatalTo 2016 開催
- ・日時 : 2017 年 6 月 2 日 (金) 14:00-17:00
- ・場所 : 駒場博物館セミナー室
- ・出席者 : CatalTo (展覧会図録品評勝手連 TOKYO) メンバー計 18 名
メンバー=教員 2 名 (学内)
大学院生および OBOG 16 名 (学内外)

活動報告 :

2017 年 6 月 2 日 (金)、記念すべき第一回 CatalTo となる CatalTo 2016 が開催されました。今回は、東京およびその近郊の美術館・博物館等で 2016 年度に開催中もしくは会期がスタートした企画展、巡回中もしくは巡回が始まった企画展の展覧会カタログ、計 110 点以上を選考対象としました。

CatalTo 2016 の選考結果および受賞カタログは以下の通りです。

- ・CatalTo 総合賞 (学術性やデザイン性、独創性、娛樂性など総合的に見て良質です)
『色の博物誌 江戸の色彩を見る・読む』(目黒区美術館、2016 年 10 月 22 日-12 月 18 日)
- ・CatalTo 学術賞 (論文や解説、書誌等が充実し、特に高い学術的価値を賞します)
『シャセリオ一展 19 世紀フランス・ロマン主義の異才』(国立西洋美術館、2017 年 2 月 28 日-5 月 28 日)
『花森安治の仕事 デザインする手、編集者の眼』(世田谷美術館、2017 年 2 月 11 日-4 月 9 日。2017 年 4 月から 10 月まで他三館に全国巡回)
- ・CatalTo 印刷賞 (出品作品の図版や画像の再現性や色彩の美しさを賞します)
『並河靖之七宝 明治七宝の誘惑 透明な黒の感性』(東京都庭園美術館、2017 年 1 月 14 日-4 月 9 日。2017 年 9 月から 12 月まで他二館に全国巡回)

- ・CatalTo 薄くても良いで賞（小規模ながら、解説・情報等の量や質の水準が高いです）

『近代日本のイタリア発見 岩倉使節団の記録から』（久米美術館、2016年7月1日-7月24日。2016年10月1日-10月30日に京都外国語大学国際文化史料館に巡回）

- ・CatalTo 一般にオススメで賞（高い独創性や娛樂性から、ぜひ多くの読者に手に取っていただきたいです）

『南極建築 1957-2016』（LIXIL ギャラリー1（東京）、2017年3月30日-5月27日。2016年12月9日-2017年2月21日にLIXIL ギャラリーハウス大阪で開催）

- ・CatalTo 国際交流賞（外国の美術館や博物館との緊密な協力を賞します）

『漢字三千年 漢字の歴史と美』（東京富士美術館、2016年10月20日-12月4日。2017年3月から9月まで他四館に全国巡回）

- ・CatalTo ポスター賞（優れた特色があり、デザイン性が高いと認められるポスターです）

『女たちの絹絵 ベトナム絹絵画家グエン・ファン・チャン 3rd 絵画保存修復プロジェクト展』（上野の森美術館ギャラリー、2017年5月10日-5月16日）＊本展の会期は2016年度ではありませんが、その掲示用ポスターが特色のある優れたデザインであったため授賞することとなりました。

以上、計8点。

なお、以下の13点の展覧会カタログは受賞には至りませんでしたが、メンバーから受賞候補として挙げられました（順不同）。

- ・『オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展』（国立新美術館、2016年4月27日-8月22日）
- ・『パロディ、二重の声 日本の一九七〇年代前後左右』（東京ステーションギャラリー、2017年2月18日-4月16日）
- ・『没後100年 宮川香山』（サントリー美術館、2016年2月24日-4月17日。2016年4月から11月まで他二館に全国巡回）
- ・『大妖怪展 土偶から妖怪ウォッチまで』（江戸東京博物館、2016年7月5日-8月28日。2016年9月10日-11月6日にあべのハルカス美術館に巡回）
- ・『世界遺産 ラスコー展』（国立科学博物館、2016年11月1日-2017年2月19日）
- ・『クリスチャン・ボルタン斯基 アニミタス さざめく亡靈たち』（東京都庭園美術館）

術館、2016年9月22日-12月25日)

- ・『トーマス・ルフ展』(東京国立近代美術館、2016年8月30日-11月13日)
- ・『木々との対話 再生をめぐる5つの風景』(東京都美術館、2016年7月26日-10月2日)
- ・『知られざる日本写真開拓史』(東京都写真美術館、2017年3月7日-5月7日)
- ・『フランスの風景 樹をめぐる物語』(東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館、2016年4月16日-6月26日)
- ・『ナムジュン・パイク展 没後10年 2020年笑っているのは誰?+?=??』(ワタリウム美術館、2016年7月17日-10月10日)
- ・『見世物大博覧会』(国立民族学博物館、2016年9月8日-11月9日。2017年1月17日-3月20日に国立歴史民俗博物館に巡回)
- ・『ピエール・アレシ NSキー展』(Bunkamura ザ・ミュージアム、2016年10月19日-12月8日。2017年1月28日-4月16日に国立国際美術館に巡回)

9. 「展覧会・カタログ評院生委員会」について

「展覧会・カタログ評院生委員会」は、若手研究者の執筆の機会を拡大するという目的のもとに、比較文学比較文化研究室の在学生によって 2004 年 10 月に組織されました。

・主要活動

1. 展覧会・カタログ評

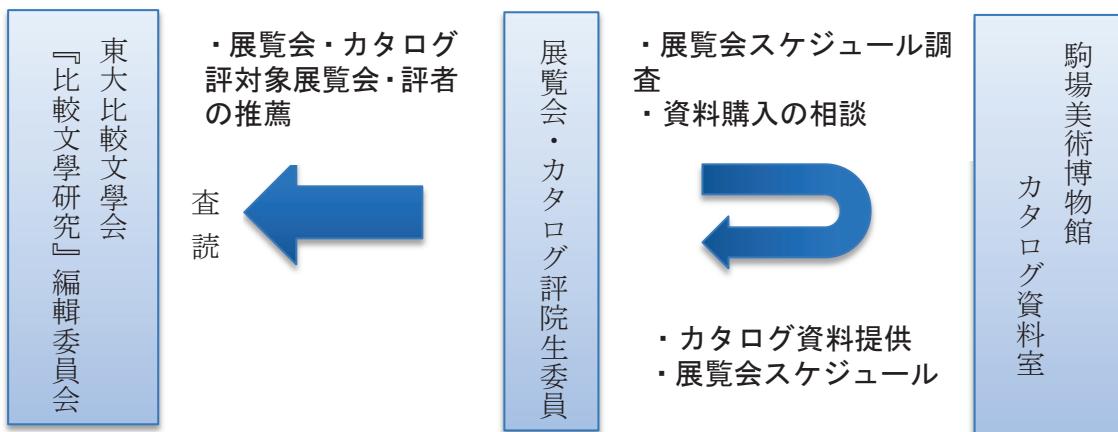
東大比較文学会より発行されている『比較文學研究』には、毎号「展覧会・カタログ評」が掲載されます。これは、全国の美術館・文学館などの博物館で開催される展覧会のうちひとつを選び、その展示内容やカタログを批評するものです。

当委員会では、評の対象となる展覧会、および評の執筆者候補を選定し、『比較文學研究』編輯委員会に推薦しています。また、選定のさいには全国各地の美術館で開催される展覧会の年間スケジュールと、比較研究室に所属する院生の専門分野を調査します。

2. 駒場美術博物館との協力

駒場美術博物館にはカタログ資料室があります。そのなかには多くの展覧会カタログがおさめられており、現在では全国有数のコレクションとなっています。当委員会で作成した展覧会の年間スケジュールの調査結果は、資料室の新規カタログ購入のさいに資料として活用されています。

なお、当委員会に所属する学生は、資料室におさめられているカタログの貸し出しが可能になり、研究で使用するカタログの購入希望を出すこともできます。



・「展覧会・カタログ評院生委員会」歴代委員長・副委員長

第1期 2004年度（2004年10月～2005年7月）

委員長：信岡朝子 副委員長：永井久美子、林三博

第2期 2005年度（2005年10月～2006年7月）

委員長：佐々木悠介 副委員長：信岡朝子、永井久美子

第3期 2006年度（2006年10月～2007年7月）

委員長：手島崇裕 副委員長：安藤智子、林久美子

第4期 2007年度（2007年10月～2008年7月）

委員長：林久美子 副委員長：手島崇裕、韓程善、定村来人

第5期 2008年度（2008年10月～2009年7月）

委員長：安藤智子 副委員長：佐々木悠介、林久美子

第6期 2009年度（2009年10月～2010年9月）

委員長：定村来人 副委員長：安永麻里絵、任ダハム

第7期 2010年度（2010年10月～2011年9月）

委員長：井口俊 副委員長：李ヒョンジュン、堀江秀史

第8期 2011年度（2011年10月～2012年9月）

委員長：堀江秀史 副委員長：伊藤由紀、川辺和将

第9期 2012年度（2012年10月～2013年9月）

委員長：古館遼 副委員長：岩瀬慧 西田桐子

第10期 2013年度（2013年10月～2014年9月）

委員長：松枝佳奈 副委員長：古館遼、木許裕介

第11期 2014年度（2014年9月～2015年9月）

委員長：西田桐子 副委員長：吉岡悠平、李範根

第12期 2015年度（2015年10月～2016年9月）

委員長：吉岡悠平 副委員長：松枝佳奈、飯盛希

第13期 2016年度（2016年10月～）

委員長：李範根 副委員長：吉岡悠平

10. 『比較文學研究』掲載歴代展覧会・カタログ評題目一覧

**現在把握可能な範囲で巡回展情報を掲載した

第 74 号 (1999 年)

今橋映子 「薩摩治郎八と巴里の日本人画家たち」展

- ・徳島県立近代美術館 (1998 年 10 月 17 日～1998 年 12 月 6 日)
- ・そごう美術館 (1999 年 2 月 5 日～1999 年 3 月 7 日)
- ・奈良そごう美術館 (1999 年 4 月 8 日～1998 年 4 月 25 日)

藤田みどり 「大ザビエル」展

- ・東武美術館 (1999 年 6 月 10 日～1999 年 7 月 20 日)
- ・岡崎市美術博物館 (1999 年 9 月 11 日～10 月 24 日)

第 75 号 (2000 年)

中村和恵 「伝統と抽象—アジア系アメリカ人芸術家 1945-1970」展

- ・丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (1999 年 4 月 11 日～1999 年 5 月 30 日)
- ・福岡アジア美術館 (1999 年 7 月 17 日～1999 年 8 月 22 日)
- ・秋田市立千秋美術館 (1999 年 9 月 4 日～1999 年 10 月 11 日)

西槇偉 「東アジア／絵画の近代—油画の誕生とその展開」展

- ・宇都宮美術館 (1999 年 9 月 12 日～1999 年 10 月 20 日)

第 76 号 (2000 年)

稻賀繁美 「岡倉天心とボストン美術館」展

- ・名古屋ボストン美術館 (1999 年 10 月 23 日～2000 年 3 月 26 日)

内藤高 「近代京都画壇と『西洋』」展

- ・京都国立近代美術館 (1999 年 8 月 6 日～1999 年 9 月 12 日)

第 77 号 (2001 年)

エリス俊子 「田中恭吉」展

- ・和歌山県立近代美術館 (2000 年 4 月 15 日～2000 年 5 月 21 日)
- ・町田市立国際版画美術館 (2000 年 6 月 3 日～2000 年 7 月 9 日)
- ・愛知県美術館 (2000 年 7 月 15 日～2000 年 8 月 27 日)

小泉順也 「ラファエル・コラン」展

- ・静岡県立美術館（1999年9月10日～1999年10月24日）
- ・福岡市美術館（1999年10月30日～1999年11月28日）
- ・島根県立美術館（1999年12月4日～2000年1月16日）
- ・千葉そごう美術館（2000年2月9日～2000年3月5日）
- ・愛媛県美術館（2000年4月8日～2000年5月7日）
- ・東京ステーションギャラリー（2000年5月27日～2000年7月2日）

第78号（2001年）

平石典子 「ナビ派と日本」展

- ・新潟県立近代美術館（2000年9月15日～2000年11月5日）

藤岡伸子 「万国博覧会と近代陶芸の黎明」展

- ・愛知県陶磁資料館（2000年4月8日～2000年5月21日）
- ・京都国立近代美術館（2000年11月28日～2001年1月28日）

第79号（2002年）

金森修 「日本の博物図譜」展

- ・国立科学博物館（2002年10月6日～2002年11月11日）

第80号（2002年）

山屋真由美 「天上の青一「瀧口修造の造形的実験」展

- ・富山県民会館美術館（2001年7月19日～2001年9月24日）
- ・渋谷区立松濤美術館（2001年12月4日～2002年1月27日）

永井久美子「ネットワークが産んだ花鳥画一「江戸の異国趣味 南蘋風大流行」展

- ・千葉市美術館（2001年10月30日～2001年12月9日）

上垣外憲一 「心の交流 朝鮮通信使」展

- ・京都文化博物館（2001年4月28日～2001年6月3日）

第81号（2003年）

李健志 「蚊帳の外一「2002年ソウルスタイル 李さん一家の素顔の暮らし」展 および「韓国大衆文化」展」

- ・国立民族学博物館（2002年3月21日～2002年7月16日）
- ・新潟新津市美術館（2002年2月8日～4月7日）
- ・世田谷美術館（2002年5月25日～2002年7月14日）

- ・高松市美術館（2002年8月2日～2002年9月1日）
- ・福岡アジア美術館（2002年11月21日～2003年2月2日）

沼野恭子「極東美術研究の突破口—「極東ロシアのモダニズム 1918-1928」展

- ・町田市立国際版画美術館（2002年4月6日～2002年5月19日）
- ・宇都宮美術館（2002年5月26日～2002年7月7日）
- ・北海道立函館美術館（2002年7月16日～2002年9月1日）

第82号（2003年）

鈴木禎宏 「「生活」を「芸術」として—西村伊作の世界」展

- ・神奈川県立近代美術館鎌倉館（2002年4月3日～2002年5月19日）
- ・和歌山県立近代美術館（2002年5月31日～2002年7月14日）

宮坂奈由 「ダンス！20世紀初頭の美術と舞踊」展

- ・栃木県立美術館（2003年2月9日～2003年3月23日）

第83号（2004年）

松井貴子 「カタログとしての書籍、書籍としてのカタログ—「明るい窓：風景表現の近代」展」

- ・横浜美術館（2003年2月1日～2003年3月30日）

西原大輔 「韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術」展

- ・東京藝術大学大学美術館（2003年4月3日～2003年5月11日）
- ・京都国立近代美術館（2003年5月20日～2003年6月29日）

西檜偉 「小山正太郎と「書ハ美術ナラス」論争の時代」展

- ・新潟県立近代美術館（2002年10月4日～2002年11月17日）

第84号（2004年）

中山由里子「アレクサンドロス大王と東西文明の交流」展

- ・東京国立博物館（2003年8月5日～2003年10月5日）

大澤吉博 特別展「江戸大博覧会—モノづくり日本」

- ・国立科学博物館（2003年6月24日～2002年8月31日）

李健志 「平常展と企画展—韓国の二つの展覧会から」

第 85 号 (2005 年)

徳盛誠 「21 世紀の本居宣長」展

- ・川崎市市民ミュージアム (2004 年 9 月 18 日～2004 年 11 月 7 日)
- ・四日市市立博物館 (2004 年 11 月 16 日～2005 年 1 月 10 日)

大嶋仁 「チャイナ・ドリーム」展

- ・兵庫県立美術館 (2004 年 7 月 24 日～2004 年 8 月 29 日)
- ・福岡アジア美術館 (2004 年 9 月 4 日～2004 年 10 月 17 日)
- ・新潟県立万代島美術館 (2004 年 10 月 23 日～2004 年 12 月 5 日)

内藤高 「万国博覧会の美術」展

- ・東京国立博物館 (2004 年 7 月 6 日～2004 年 8 月 29 日)
- ・大阪市立美術館 (2004 年 10 月 5 日～2004 年 11 月 28 日)
- ・名古屋市博物館 (2005 年 1 月 5 日～2005 年 3 月 6 日)

第 86 号 (2005 年)

佐藤宗子 「ピノッキオ—その誕生から現代まで」展

- ・高松市美術館 (2004 年 4 月 9 日～2004 年 5 月 9 日)
- ・吳市立美術館 (2004 年 5 月 15 日～2004 年 6 月 27 日)
- ・和歌山県立近代美術館 (2004 年 7 月 18 日～2004 年 9 月 23 日)
- ・おかげ世界子ども美術博物館 (2004 年 10 月 2 日～2002 年 11 月 28 日)

小林将輝 「フルクサス」展

- ・うらわ美術館 (2004 年 11 月 20 日～2005 年 2 月 20 日)

第 87 号 (2006 年)

前島志保 「アジアのキュビズム：境界なき対話」展

- ・東京国立近代美術館 (2005 年 8 月 9 日～2005 年 10 月 2 日)
- ・徳寿宮美術館 (韓国、2005 年 11 月 11 日～2006 年 1 月 30 日)
- ・シンガポール美術館 (2006 年 2 月 18 日～4 月 9 日)

坂本輝世 「アラビアンナイト大博覧会」展

- ・国立民族学博物館 (2004 年 9 月 9 日～2004 年 12 月 7 日)

西川正也 「ジャン・コクトー展—サヴァリン・ワンダーマン・コレクション」

- ・北海道立近代美術館 (2005 年 4 月 19 日～2005 年 5 月 29 日)
- ・日本橋三越本店新館 7F ギャラリー (2005 年 7 月 20 日～2005 年 7 月 31 日)
- ・山梨県立美術館 (2005 年 8 月 6 日～2005 年 9 月 7 日)
- ・大丸ミュージアム KOBE (2005 年 9 月 14 日～2005 年 9 月 26 日)
- ・岩手県立美術館 (2006 年 4 月 8 日～2006 年 5 月 21 日)

第 88 号 (2006 年)

陳岡めぐみ「Alternative Paradise—もうひとつの楽園」展

・金沢 21 世紀美術館 (2005 年 11 月 5 日～2006 年 3 月 5 日)

曾我晶子「ベルリンと東京—都市と文化の遠近法」展

・森美術館 (2006 年 1 月 28 日～2006 年 5 月 7 日)

・ベルリン新国立美術館 (2006 年 6 月 8 日～10 月 3 日)

第 89 号 (2007 年)

手島崇裕「マンダラ展—チベット・ネパールの仏たち」展

・国立民族学博物館 (2003 年 3 月 13 日～6 月 17 日)

・名古屋市博物館 (2004 年 4 月 10 日～7 月 4 日)

・埼玉県立近代美術館 (2006 年 7 月 8 日～9 月 24 日)

今野喜和人「詩人の眼・大岡信コレクション」展

・三鷹市美術ギャラリー (2006 年 4 月 15 日～2006 年 5 月 28 日)

・静岡グランシップ (2006 年 8 月 3 日～2006 年 8 月 28 日)

・福岡県立美術館 (2006 年 11 月 8 日～2006 年 12 月 10 日)

・足利市立美術館 (2007 年 2 月 10 日～2007 年 3 月 25 日)

第 90 号 (2007 年)

安藤智子「イメージの迷宮に棲む 柄澤斎 展—「一冊の本」としての展覧会、そして「一冊の本」の記憶としての展覧会カタログ」

・神奈川県立近代美術館 鎌倉 (2006 年 10 月 28 日～2006 年 12 月 24 日)

佐藤温「近代文人のいとなみ」展

・成田山書道美術館 (2006 年 11 月 3 日～2006 年 12 月 23 日)

伊藤由紀「森鷗外と美術」展

・島根県立石見美術館 (2006 年 7 月 14 日～2006 年 8 月 28 日)

・和歌山県立近代美術館 (2006 年 9 月 10 日～2006 年 10 月 22 日)

・静岡県立美術館 (2006 年 11 月 7 日～2006 年 12 月 17 日)

第 91 号 (2008 年)

前島志保「アジアのキュビズム」ソウル展

・韓国国立現代美術館 徳壽宮美術館 (2005 年 11 月 11 日～2006 年 1 月 30 日)

深見麻「大正シック」展

・東京都庭園美術館 (2007 年 4 月 14 日～2007 年 7 月 1 日)

・尼崎市総合文化センター (2007 年 7 月 28 日～2007 年 8 月 26 日)

・静岡県立美術館 (2007 年 9 月 8 日～10 月 14 日)

・尾道市立美術館 (2007 年 10 月 20 日～12 月 16 日)

第 92 号 (2008 年)

佐藤光「青山二郎の眼」展

- ・ MIHO MUSEUM (2006 年 9 月 1 日～2006 年 12 月 17 日)
- ・ 愛媛県美術館 (2007 年 1 月 26 日～2007 年 3 月 4 日)
- ・ 新潟市美術館 (2007 年 4 月 6 日～2007 年 5 月 13 日)
- ・ 世田谷美術館 (2007 年 6 月 9 日～2007 年 8 月 19 日)

李健志「文化的記憶—柳宗悦が発見した朝鮮と日本」展

- ・ 韓国 一民美術館 (2007 年 11 月 10 日～2007 年 2 月 25 日)

第 93 号 (2009 年)

林久美子「パリへ—洋画家たち百年の夢」展と「黒田から藤田へ—パリの日本人画家」展

- ・ 東京藝術大学大学美術館 (2007 年 4 月 19 日～2007 年 6 月 10 日)
- ・ 新潟県立近代美術館 (2007 年 6 月 23 日～2007 年 8 月 5 日)
- ・ MOA 美術館 (2007 年 8 月 17 日～2007 年 9 月 30 日)
- ／パリ日本文化会館 (2007 年 10 月 24 日～2008 年 1 月 26 日)

第 94 号 (2010 年)

川島健「十二の旅—感性と経験のイギリス美術」展

- ・ 栃木県立美術館 (2008 年 4 月 27 日～2007 年 6 月 22 日)
- ・ 静岡県立美術館 (2008 年 9 月 12 日～10 月 26 日)
- ・ 富山県立近代美術館 (2008 年 11 月 2 日～12 月 23 日)
- ・ 世田谷美術館 (2009 年 1 月 10 日～3 月 1 日)

西田桐子「沖縄・プリズム 1872—2008」展

- ・ 東京国立近代美術館 (2008 年 10 月 31 日～12 月 21 日)

第 95 号 (2010 年)

大嶋仁「未来をひらく 福澤諭吉展」について

- ・ 東京国立博物館 表慶館 (2009 年 1 月 10 日～2009 年 3 月 8 日)
- ・ 福岡市美術館 (2009 年 5 月 2 日～2009 年 6 月 14 日)
- ・ 大阪市立美術館 (2009 年 8 月 4 日～2009 年 9 月 6 日)
- ・ 神奈川県立歴史博物館 (2009 年 8 月 22 日～2009 年 9 月 23 日)

吉岡知子「躍動する魂のきらめき—日本の表現主義」展

- ・栃木県立美術館（2009年4月26日～2009年6月15日）
- ・兵庫県立美術館（2009年6月23日～2009年8月16日）
- ・名古屋市美術館（2009年8月25日～2009年10月12日）
- ・岩手県立美術館（2009年10月20日～2009年11月29日）

第96号（2011年）

定村来人「江戸の粋・明治の技 柴田是真の漆×絵」展

- ・三井記念美術館（2009年12月5日～2010年2月7日）
- ・相国寺承天閣美術館（2010年4月3日～2010年6月6日）
- ・富山県水墨美術館（2010年6月25日～2010年8月22日）

寺田寅彦「フランスの浮世絵師 アンリ・リヴィエール」展

- ・石川県立美術館（2009年7月24日～2009年8月23日）
- ・神奈川県立近代美術館 葉山（2009年9月5日～2009年10月12日）

第97号（2012年）

水野太朗「異色の芸術家兄弟：橋本平八と北園克衛」展

- ・三重県立美術館（2010年8月7日～2010年10月11日）
- ・世田谷美術館（2010年10月23日～2010年12月12日）

堀江秀史「映像と展覧会：第三回恵比寿映像祭の試み」

- ・東京都写真美術館その他（2011年2月18日～2011年27日）

第98号（2013年）

申旼正「二つの川村清雄展：「維新の洋画家 川村清雄展」と「もうひとつの川村清雄展」」

- ・東京都江戸東京博物館（2012年10月8日～12月2日）
- ・静岡県立美術館（2013年2月9日～3月27日）
- ／ 目黒区美術館（2012年10月20日～12月16日）

任ダハム「渋谷ユートピア 1900—1945」展

- ・渋谷区立松濤美術館（2011年12月6日～2012年1月29日）

第99号（2014年）

金志映「生誕125年 萩原朔太郎展」

- ・世田谷文学館（2011年10月8日～12月4日）

三松幸雄「還元主義の帰趣——「アートと音楽 新たな共感覚をもとめて」展」

・東京都現代美術館（2012年10月17日～2013年2月3日）

第100号（2015年）

岩下弘史「夏目漱石の美術世界」展

・広島県立美術館（2013年3月26日～2013年5月6日）

・東京藝術大学大学美術館（2013年5月14日～2013年7月7日）

・静岡県立美術館（2013年7月13日～2013年8月25日）

松枝佳奈「国立トレチャコフ美術館所蔵 レーピン展」

・Bunkamura ザ・ミュージアム（2012年8月4日～2012年10月8日）

・浜松市美術館（2012年10月16日～2012年12月24日）

・姫路市立美術館（2013年2月16日～2013年3月30日）

・神奈川県立近代美術館 葉山（2013年4月6日～2014年5月26日）

第102号（2017年）

岡野宏「オットー・クンツリ」展

・ディ・ノイエ・ザムルングー国際デザイン美術館

（ミュンヘン、2013年3月9日～2013年4月7日）

・MUDAC 現代デザイン美術館

（ローザンヌ、2014年7月9日～2014年10月5日）

・東京都庭園美術館（2015年10月10日～2015年12月27日）

11. 駒場博物館カタログ資料室司書 木村由美子氏インタビュー

(2017年6月21日、於駒場博物館カタログ資料室)



司書・木村由美子氏

1968～2008年まで、九州芸術工科大学図書館及び九州大学医学部図書館（2003年の九州大学との統合による）にて勤務。

2009年より、駒場博物館カタログ資料室にて勤務。

—— 駒場博物館カタログ資料室に着任した頃、資料室はどのような状況でしたか？

・木村氏：私は、2009年の7月に着任しました。着任して初期の頃、OPACに未登録の資料が多くありましたね。せっかくこれだけの資料があるのに、学内にほとんど知られていない状況で、これはもったいないと思い、所蔵資料のOPACへの登録作業に力を注いでいました。

当時の資料室には、OPACに資料の登録をするためのシステム整備ができておらず、登録のために駒場図書館までカタログを台車で運び、図書館の端末を借りて登録作業を行っていました。しばらくしたら、資料室にも登録システムができ、より精力的に作業を進めることができました。

OPACに資料の情報が登録され、カタログ資料室の所蔵情報が公開されるようになってからは、利用者も増えるようになりました。

—— これまでのお仕事を振り返ってみて何か思うことがありましたら教えてくださいませんか。

・木村氏：私が九州芸術工科大学で初めて勤務するようになった時、図書館ができたばかりの頃で、書籍の登録作業を含め、一から基盤を作り上げていくような感じでしたね。カタログ資料室での仕事も、その時と似ているところがあったと思います。そのような経緯もあるので、カタログ資料室には大変愛着があり、まるで自分の資料室のような気がしています。

—— 今後はどのような仕事に力を入れていきたいですか？

・木村氏：現在は利用者が直接資料室に訪問して、貸出を申請するようになっていますが、今後は図書館と同じ条件で、自由に貸出できるようにしたいと思っています。そうなるともっと利用者も増えるでしょうし、私たちとしては、利用していただくことが最も嬉しいことですので、そのようにしていきたいですね。

—— 長時間、ありがとうございました。

（聞き手：東京大学大学院博士課程・李範根）

12. 「資料室と CatalTo の未来へ」

美術博物館委員 寺田寅彦

(東京大学大学院総合文化研究科・教授)

「指折り数える」と言いますが、多くの文明ではこの指で数える習慣から十進法が生まれました。十という数はひとつの単位であり、区切りです。展覧会カタログ資料室開室から十年という月日が経ちましたが、この大切な年に CatalTo が始まったことはまさに歴史を画することでしょう。

展覧会カタログ資料室の十年は、東京大学比較文学比較文化研究室で生まれた展覧会・カタログ評院生委員会を構成する大学院生と教員、そしてなによりもその活動の場である駒場美術博物館資料室の地道で誠実な活動により支えられてきました。そして CatalTo はこれからの中年を牽引していく楽しくかつ真摯な企画となることでしょう。なぜならば CatalTo とは有志が集まり学外からの参加も得て始まったものだからです。

志あるものが集まってできたということが、「展覧会図録品評勝手連 TOKYO」という名前からも伝わることと思います。勝手連という語は「勝手に連帯する若者連合」という表現から生まれたのですが、自由で澁渾とした若々しさと初々しさがそこにはあります。ただそれはただ気ままに好きなことをしているわけではありません。結びつきがあるからこそ感じる喜びと、ひとつになるからこそ生まれる強さを大切にする意識があります。

そのような意識が、心躍るロゴを生み、賑やかな品評会を開催させ、華やかな記念式典に結実しました。CatalTo のさまざまな賞の名前ひとつひとつに、この生き生きとした勝手連のメンバーの思いが表れています。弾けるような豊かな賞の名前は、力のこもったカタログを目にした時の喜びが素直に表れたのですが、これも展覧会カタログ資料室での十年という歳月が育んだカタログを見る目のおかげで生まれた喜びなのです。

十という数からはさまざまな表現ができます。十人十色はそのひとつでしょう。ひとりひとりのメンバーの色が違うからこそ、カラフルで魅力あふれるグループが形成されます。十全十美とはいいかないかもしれません、多様性があるからこそ思わぬ喜びに十中八九巡り合えるのではないかとも思われるのです。もちろん十年一昔と言いますから、これからの中年もすぐに過ぎてしまうのかもしれません、勝手連の精神とともによい十年になることを願っています。

〈参考資料〉

- ・外部評価（1）：安藤智子「研究教育に直結した資料室として一駒場美術博物館および資料室見学記」（『アートドキュメンテーション通信』No.83、アートドキュメンテーション研究会、2009年、10頁）

美術館図書室 SIG 通信

研究教育に直結した資料室として一駒場美術博物館および資料室見学記

安藤 智子

2009年6月25日、東大駒場美術博物館見学会に参加させていただいた。2004年の全面リニューアル直後の「色の音楽・手の幸福—ロラン・バートのデッサン」展以来、5年ぶりにうかがった。正門を入ると正面に時計台のある1号館、そこを中心に左右対称に双子のような建物が、900番教室と右手の駒場美術博物館である。

はじめに今橋映子先生から、東大駒場美術博物館の成り立ちや変遷、さらに資料室オーブンに至るまでの経緯についてお話ししていただいた。その後、特任研究員の坪井久美子氏と共に資料室をご案内いただく。

こちらは、2007年6月に開室した展覧会カタログに特化した資料室であり、蔵書はすべて、東京大学オンライン蔵書目録(OPAC)並びにNACSIS Webcatで検索可能となっている。閲覧利用できるのは、東京大学に所属する教職員、院生、学生などに限られている。展覧会カタログの収蔵という点では、一昨年開館した国立新美術館資料室や東京都現代美術館図書室などの広範かつ大規模なものはいくつもあるが、あくまで研究教育に直結した学際的展覧会に直きをおいてることは、他と一線を画している。開催館ごとに整理、配架されており、決して広くないながらも充実した内容とわかりやすい配置となっている。

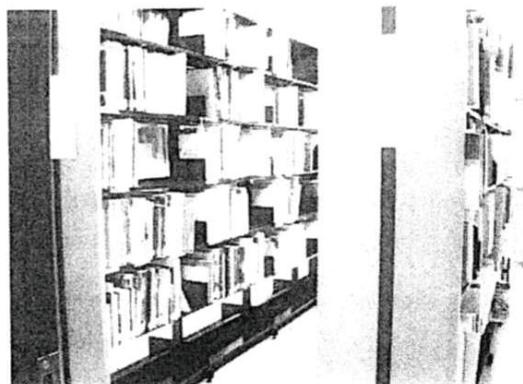
特筆すべき制度として、「展覧会・カタログ評議会委員会」がある。これは、2004年に比較文学比較文化研究室の在学生によって、若手研究者の執筆の奨励を拡大するという目的で組織された。活動内容は、全国の美術館・博物館・文学館で開催される展覧会から比較文学比較文化研究と関わるような学際的企画展をピックアップし、その展覧会カタログと併せて批評するものである。評論は、『比較文學研究』編輯委員会の査読を経て、東大比較文学会発行の学術雑誌『比較文學研究』に掲載される。一連の活動のなかで、各館の企画展スケジュールの調査・集計には、駒場美術博物館資料室の協力は不可欠であり、また、委員会が推薦した展覧会や有力な候補にあがった展覧会のカタログは、資料室に納められることとなる。委員にとっては研究の一環としてのすばらしい経験となり、資料室にとっても多彩な専門分野を網羅した委員による蔵書充実となる、合理的なシステムでもあるといえる。さらに学術雑誌ともリンクし

ていて、よく練られた構造になっていると思った。

展覧会の選出検討の際は、年間スケジュールが早く確認できることが重要であり、例年企画スケジュール決定が遅れがちな美術館の館員としては、身の小さくなる話でもあった。

「展覧会・カタログ評議会委員会」の力作を見せていただいた後、折茂克哉氏が展示室をご案内くださった。開催していたのは、東京大学教養学部創立60周年記念「矢内原忠雄と教養学部」。旧制第一高校の図書館であったという由緒ある建物は、ドームを内包する簡素かつ清廉な設計で、静謐な空気を醸しだしており、天井の格子が美しい。所蔵品は旧制第一高校当時の教材、中南米・アジアの考古学資料、今回一部展示している南方の民俗資料、さらに近代日本画、現代美術など多岐にわたる。展示環境を整えるのも、作品の調査・保存をするのも、手作りの工夫が必要な様子。多少の差異はある、何處も同じような悩みを抱えていることを実感した。

今橋先生のお話からは、現在の研究に直結した機動力のある資料室を目指しているという強い思いが感じられた。美術館・博物館・図書室の活動では、限られたものの中で、出来うることを日々積み重ねることが重要であると同時に、内部・外部への積極的なアプローチも必要であり、そのことを再認識した見学会となった。



(あんどう ちえこ 出光美術館)

撮影：山崎美和

東大駒場で展覧会カタログをめぐるフォーラム開催される

10月5日午後、東大駒場キャンパスで展覧会カタログをめぐるフォーラムが開催された。名称は「展覧会カタログ&評院生委員会創立10周年記念

祭駒場のオアシス駒場博物館資料室への誘い－美博と院生コラボの10年」。東大駒場博物館ではこの10年、展覧会カタログを積極的に収集し、

院生たちは、全国各地で開催されている展覧会情報を集めて、博物館スタッフの展覧会カタログ収集活動をサポートする

（司会）・国立西洋美術館の陳岡めぐみ主

任研究員らによるトーク

が行われ、美術批評の場

はどこにあるのか？など

をめぐって今日的な問題

の核心に迫る討議がなさ

れた。

10月5日午後、東大駒場キャンパスで展覧会カタログをめぐるフォーラムが開催された。名称は「展覧会カタログ&評院生委員会創立10周年記念

祭駒場のオアシス駒場博物館資料室への誘い－美博と院生コラボの10年」。東大駒場博物館ではこの10年、展覧会カタログを積極的に収集し、

院生たちは、全国各地で開催されている展覧会情報を集めて、博物館スタッフの展覧会カタログ収集活動をサポートする

（司会）・国立西洋美術館の陳岡めぐみ主

任研究員らによるトーク

が行われ、美術批評の場

はどこにあるのか？など

をめぐって今日的な問題

の核心に迫る討議がなさ

れた。

駒場博物館カタログ資料室開室 10 周年記念式典
&東大比較文學會 CatalTo2016 記録集

【発行日】2017 年 7 月 21 日

【編集者】展覧会・カタログ評院生委員会（東大比較文學會）
委員長 李範根

【発行】東京大学大学院総合文化研究科・教養学部駒場博物館

住所 〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1

電話 03-5454-6139